

平和への思いをこめ、各地域・院所で 原水爆禁止世界大会・反核フェスティバル

報告会



大田病院の駐車場で行われた「大田反核フェスティバル」



原水爆禁止世界大会「長崎大会」開会総会

城南保健生協から村松さん(大田代表団)、阿部さん(大田代表団)、馬島さん親子(品川代表団)が参加しました。



西品川支部では、報告会が行われました。三ツ木診療所の代表として長崎大会へ行った杉山さんが報告しました



城南保健生協(大田代表団)として長崎大会へ行った、うのき雪谷支部の村松さん(中)と事務局の阿部さん(右)

原水爆禁止世界大会に 参加して

馬島 溪

今年、僕は初めて品川区原水協のみなさんと長崎での原水爆禁止世界大会に参加しました。

3日間の日程で、1日目は原水爆禁止世界大会の開会式に参加しました。そこには、6800人も人が参加していて、その中には韓国や中国、エジプト、キューバなど外国から来た人もたくさんいて、日本で行われる原水爆禁止の大会が世界各国にまで知られたってすごいと思いました。

2日目は「少年少女平和のつどい」に参加しました。そこで僕は被爆遺跡巡りをしたり、戦争中の食事をしたり、平和の紙芝居を見たりしました。被爆遺跡巡りでは爆心地公園と城山小学校に行きました。城山小学校の校庭はとも暑く62年前の8月9日、アメリカによって1つの原子爆弾が落とされ、夏休み中も登校していた先生28人が亡くなり、生き残った先生は3人だけであり、当時、城山小学校は学校工場になっていて、働

いていた県立高等女学校の生徒200余人は全員亡くなったという事です。

被爆遺跡巡りが終わった後、昼食として戦争中の「すいとん」、野菜を入れた雑炊を食べました。戦争末期には、毎日のようにこのようなものしか食べられなかったということです。

その後、平和の紙芝居を見ました。原爆で2人が亡くなり、1人が生き残った子どもの体験についての物語でした。

次に被爆者の方に戦争中の話を聞きました。その話で62年たった今も放射能による原爆症で苦しんでおられる方が多いということを知りました。

その後、参加者全員で平和へのメッセージを書きました。僕はそこに「もう二度とたくさんの方が苦しみながら死んでいく戦争というものが起こりませんように」と書きました。もう二度と戦争、核兵器の使用というものがあるてはならないと思います。2日目の「少年少女のつ



鵜の木地域でも報告会が行われました



城南保健生協(品川代表団)として長崎に行った馬島さん親子

どい」全体を通して、たった1発の原子爆弾がここまで町をこわし、人を殺し、そのうえ広島・長崎に落とされた原子爆弾よりもずっと強力な核兵器が今も地球上にたくさんあると聞いて僕は恐ろしくなりました。

3日目は、原爆資料館を見学し、そこで、原爆の爆風と熱線放射能の恐ろしさを改めて実感しました。その後、原水爆禁止世界大会の開会総会に参加しました。その中で高校生が今、若者が果たすべき役割について意見を述べていたことが感動的でした。

僕は今回、原水爆禁止世界大会に参加して、どうすればこの地球上から核兵器をなくすことができるのか、戦争と核兵器をなくす運動を身近なところから広げていかなければならないと思いました。